

日本の未来

2015年2月9日

クローバー・アセットマネジメント株式会社

代表取締役社長 多根 幹雄

日本の未来に関してですが、残念なことに、世界的には相変わらず悲観的な見方をしている人が多いようです。まず1,000兆円を超える巨額の国の借金があること。また、少子高齢ののち、やがて大幅な人口減が予想されているからです。

そういう中で、久々に日本対して前向きな意見を聞くことが出来ました。その人はピーター・タスカ氏。かつて92年から6年間連続で日経新聞のストラテジスト・ランキングでトップを誇った世界的な日本の論客です。彼の97年の著書『不機嫌な時代』は、日本の将来に警笛を鳴らし、当時ベストセラーになりました。その内容に、私どものグループの社長が惚れ込んで、CMに出演してもらったり、社外役員になってもらったりしたこともありました。実は今回お会いする際に、是非お訊きたいことがありました。それは、この「不機嫌な時代」に書かれていた日本の「三つのシナリオ」が今どうなっているか、つまり「長いさよなら」のままなのかどうかということでした。

その問いに答えるタスカさんの声がかきわめて明るかったのが印象的です。「日本はこれから20年の上昇トレンドに入る」と。かつて、タスカさんの祖国イギリスは「大英帝国」の地位から転げ落ち、70年代は15から18パーセントものインフレを伴った不況に苦しみました。その姿は「世界の工場」の地位を中国に明け渡し、デフレを伴った長期の不況に苦しむ日本の姿と重なるようです。そのイギリスは、世界中がインフレからの脱出を計ろうとした70年代半ばから、本格的にインフレに立ち向かい、世界が「脱インフレ」に成功する90年代半ばから、大きく飛躍することになります。それと同じように、ヨーロッパも大幅な金融緩和を決定し、世界中がデフレ懸念からの脱出をはかろうとする今日、一番デフレに苦しんでいた日本が、一番恩恵を受ける時代が来たというのです。実際、日本はようやくデフレマインドから抜け出しつつあり、新しいことにリスクを取って挑戦しようという気持ちが生まれつつあるということでした。

そのことを実感した出来事が先日ありました。大学を出てまだ2年目の若者が、これからは始めるビジネスモデルについて意見を求めに来社しました。彼が同伴したのがスポンサーとなるベンチャー投資の人間で、なんと、彼らは一億円もの大金を投資することを既に決定しているということでした。若い起業家にとって、一番お金の苦労するのは何の実績も無いスタートアップの時です。その時に、リスクを取って起業を応援する投資家が日本にも出てきたこと、そして、それに応じて果敢に起業に挑戦する若者がいること、それらに、今までと違う可能性を感じました。

このように、リスクを取って新しいことに挑戦する経営者や起業家には、大いに頑張っただけですが、我々も後れを取ってはいけません。一人ひとりが、こつこつと長期投資で「経済的自立」を達成し、若いわが街の起業家を応援するなど、しっかり勉強してどんどん社会の為にお金を活かして行きたいですね。そうすれば、「これからの20年」に限らず、世界が理想とする新しい日本のホンモノの繁栄がきっと実現できるはずです。是非ご一緒に頑張りましょう。

セミナーのご案内



2020年に資産を倍にする方法

【日時】 2015年2月13日(金)18:30~20:50

【会場】 ポーラ銀座ビル 4Fミキシムギンザ内
東京都中央区銀座1-7-7

【費用】 無料(交流会参加の場合は1,000円)

【定員】 33名

【講師】 糸島 孝俊氏 コモンズ投信 運用部長
多根 幹雄 弊社代表



糸島孝俊氏



2020年に大差がつく長期投資

【日時】 2015年2月20日(金)18:30~20:50

【会場】 ポーラ銀座ビル 4Fミキシムギンザ内
東京都中央区銀座1-7-7

【費用】 無料(交流会参加の場合は1,000円)

【定員】 33名

【講師】 澤上 篤人氏 さわかみ投信会長
多根 幹雄 弊社代表



澤上篤人氏



2020年に資産を倍にする方法

【日時】 2015年2月21日(土)13:00~15:20

【会場】 メガネの三城 心齋橋本店3Fサロン
大阪府中央区心齋橋筋1-4-26

【費用】 無料(交流会参加の場合は1,000円)

【定員】 40名

【講師】 糸島 孝俊氏 コモンズ投信 運用部長
多根 幹雄 弊社代表



多根幹雄

お申込み

クローバー・アセットマネジメント

03-6262-3923

または

gyoumu@clover-am.co.jp

『時 × 空』投資で創る自由な未来

clover
asset management

■当セミナーでは、クローバー・アセットマネジメント株式会社が設定・運用・販売を行う投資信託の勧誘を行うことがあります。■投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者(投資者)の皆様へ帰属します。■当セミナーで示された数値、見通し等は、講演会開催時点のものであり、その正確性を保証するものではなく、将来予告なく変更されることがあります。将来の企業業績、市場環境の変化および運用成果等を保証するものではありません。

～家計に身近なファンドでありたい～

浪花おふくろファンド

追加型投信／内外／株式

月次レポート
2015年1月30日基準

ファンド概況

基準価額	15,318円	純資産総額	885百万円
設定日	2008年4月8日		
信託期間	無期限		
決算日	毎年3月3日		

期間別騰落率(%)

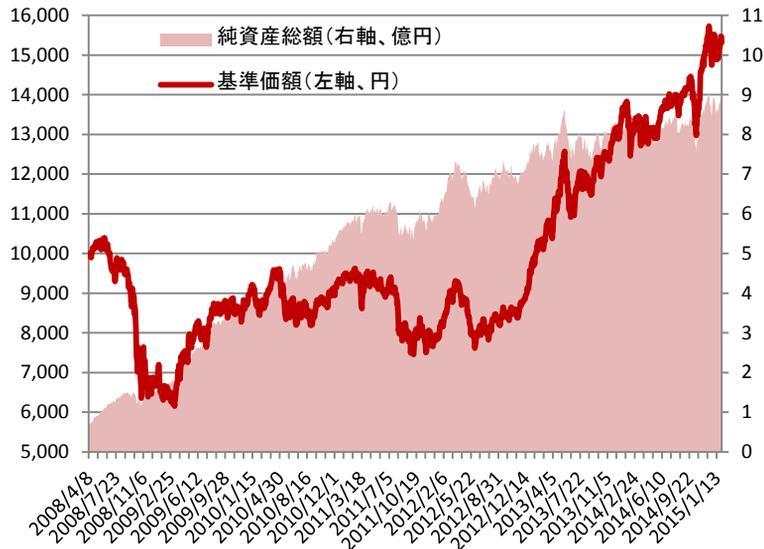
1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
-1.26	10.29	9.37	16.33	86.06	53.18

分配金(円)

直近3期を表示

4期 ('12/3/3)	5期 ('13/3/4)	6期 ('14/3/3)	累計
0	0	0	0

基準価額と純資産総額の推移



運用コメント

1月の米国株式市場は、ギリシャのユーロ離脱懸念、原油の一段安などにより軟調に始まりました。その後も、不安定な状況が続きましたが、原油の反発、ECBの予想を超えた思い切った量的緩和の発表を受け後半は順調に値を戻してきました。ただ、月末には、ギリシャの総選挙の結果、急進左派連合が圧勝し、ユーロ離脱懸念が再燃、さえない決算も影響して軟調となりました。

一方、日本株式市場も、軟調に始まり、米国株式市場の影響を受け中盤までは不安定な状況でした。しかし、後半GPIFの大口の買いの影響か、株価は順調に推移し、中盤までの下落にもかかわらず、前月比1.3%と値を戻しました。特に、最終週は、117円台で大きな変化がないドル円相場、軟調な米国株式市場との連動から解き放たれた感がありました。

こうした中、おふくろファンドは、ALAMCOハリスグローバルバリュー株ファンドが為替の影響もあり大きく下げた影響で、残念ながら、1月末の時点では、前月比-1.26%という結果でしたが、2月に入って値を戻しつつあります。

今後も方向としては、当面、勢いを増しつつある日本株を中心に、調整局面では思い切った買いを入れてゆく予定です。

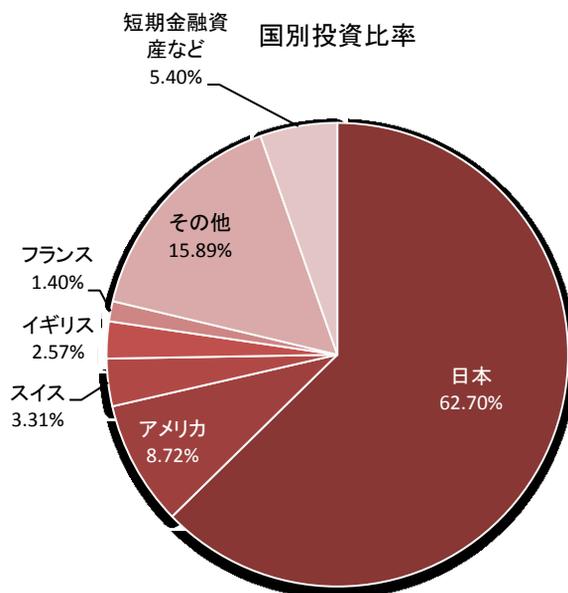
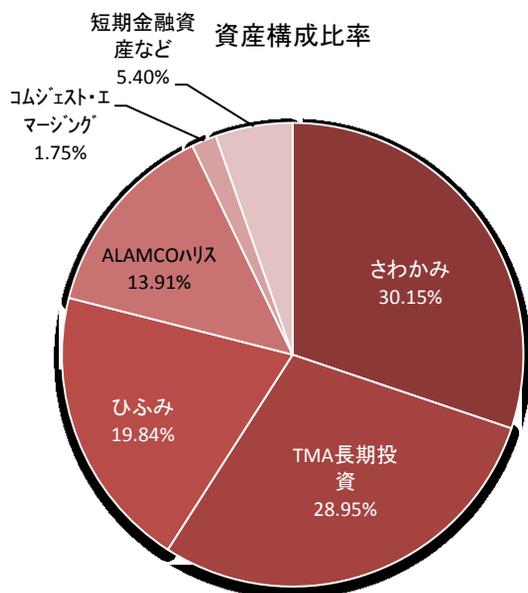
～家計に身近なファンドでありたい～

浪花おふくろファンド

追加型投信／内外／株式

月次レポート
2015年1月30日基準

ポートフォリオの状況



浪花おふくろファンド純資産総額に対する上位組入れ銘柄・比率

(組入れ銘柄数: 329銘柄)

順位	銘柄名	業種	組入れ比率	組入れファンド名
1	トヨタ自動車	世界最大級の自動車メーカー	1.87%	さわかみ
2	ブリヂストン	世界最大手のタイヤメーカー	1.57%	さわかみ
3	キーエンス	ファクトリーオートメーション用センサの製造	1.27%	TMA長期投資
4	エア・ウォーター	総合ガス企業	1.10%	TMA長期投資
5	ミスミグループ本社	機械加工製品の企画・販売	1.01%	TMA長期投資
6	花王	洗剤、トイレタリー、化粧品など製造	1.01%	さわかみ
7	エムスリー	インターネットを利用した医療関連サービスの提供	0.87%	TMA長期投資
8	シマノ	バイシクル、釣具、ボート等を製造	0.84%	TMA長期投資
9	NESTLE SA-REGISTERED	世界最大の食品・飲料メーカー(スイス)	0.84%	TMA長期投資
10	ダイキン工業	空調事業でシェア世界一	0.83%	さわかみ



ファンドの特色

①株式投資によって長期的に高い運用成果をめざします

株式は、数ある金融商品の中で最も高い投資成果を上げてきた金融商品の一つです。

株価が上昇してきたのは、主に企業の利益が時間をかけて拡大してきたからです。

つまり、株価が上がってきた企業とは、社会にとって必要な製品・サービスを提供し続けてきた企業である、とも言えます。

長期的には株価は上昇すると予想していますので、株式への投資比率は高めを維持するのが基本です。景気が過熱したり、投資家心理が強気に傾き過ぎたりと、株価の割高感が強まった場合は、その後の株価下落に備えて投資比率を低くし、現金の割合を増やす調整を行います。

②広く世界に投資します

長期的な株価上昇は、企業業績の拡大に沿って進むと考えています。業績が拡大を続ける企業は、もちろん日本にもありますが、世界に数多く存在しています。日本に限らず優れた企業を世界中に広く求めて投資することは、ファンドが成長するチャンスを増やしていくことにつながると考えています。

世界を視野に入れて投資すれば、ひとつの国や地域の株価変動に影響されすぎない、より安定した投資成果を期待することができると考えています。

③「ファンド・オブ・ファンズ」を採用

長期的な株価上昇には、企業利益に継続的な増加が必要だとの観点から、おふくろファンドでは、世界中に存在する優れた企業を選別して投資することを重視しています。

そのためには、世界の株式に単に分散投資するのではなく、優れた企業への選別投資を実行しているファンドに投資することが、最も効果的かつ効率的であると考え、ファンド・オブ・ファンズという仕組みを採用しました。

ファンドにかかわるリスク

当ファンドは、値動きのある国内外の株式等に投資する投資信託証券に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。

投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者(投資者)の皆様に帰属します。

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等があります。リスクについての詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

<お申込みの際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください>

ファンドにかかわる費用

購入・換金手数料	ありません
信託財産留保額	ありません
運用管理費用 (信託報酬)	年率0.972%(税抜き0.9%) 組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.65±0.25%(概算)
その他費用・ 手数料	信託財産に関する租税、投資対象とする投資信託証券の売買に発生する売買委託手数料及びその手数料に対する消費税相当額等の費用、外貨建資産の保管等に要する費用は、お客さまの負担として、信託財産中から実費を負担します。

業務管理部からのお知らせ

【確定申告についてのご案内】

今年も確定申告の時期がやってきました。

昨年、弊社のファンドをご解約されたお客様は、下記の表をご確認ください。

お取引口座	利益が発生したお客様	損失が発生したお客様
特定口座※ (源泉徴収あり)	原則、確定申告は 不要 です。 ただし、他の株式や投資信託の損失と損益通算される方は 必要 です。	以下の手続きをされる方は、 確定申告が 必要 です。 ・他の株式や投資信託の売却益、配当、分配金と損益通算される方 ・損失を翌年に繰り越しされる方
特定口座※ (源泉徴収なし)	確定申告が 必要 です。	
一般口座	確定申告が 必要 です。	

※特定口座でご解約されたお客様は、先月お送りした「特定口座年間取引報告書」が申告の際に必要となります。

* 申告期間は、平成27年2月16日(月)～平成27年3月16日(月)です。

* 詳しくは、国税庁、e-taxのホームページをご覧ください。最寄りの税務署までお問い合わせください。

【「お客様マイページ」サービス開始について】

2015年3月中旬、「お客様マイページ」サービスを開始します。

「お客様マイページ」は、ご自宅のパソコンから、資産状況の確認、各種報告書の電子交付、各種お手続き書類の請求が簡単な操作で可能となります。「お客様マイページ」をご利用いただくには「電子交付サービス」への申込みが必要です。お申込みがお済でない方は、ホームページもしくはお電話にて受け付けておりますので、この機会にぜひお申込みください。

なお、すでに「電子交付サービス」に申込みをされている方へは、月次レポートを電子メールで送付しております。

■ホームページ <http://www.clover-am.co.jp/>

※TOPページの「お客様マイページ」サービスを開始します”画面の「お申し込みはこちらから」にアクセスしてください。

【ホームページシステムメンテナンスのお知らせ】

下記の期間、システムメンテナンスのため、ホームページの閲覧とサービスがご利用頂けない場合がございます。お客様にはご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

【停止日時】2015年2月20日(金) 20時 ～ 23日(月) 8時

クローバー・アセットマネジメント株式会社 業務管理部 (受付時間：平日9時～17時)

TEL:03-6262-3923 / E-mail: gyoumu@clover-am.co.jp

当資料のご利用にあたっての注意事項

■当資料はクローバー・アセットマネジメント株式会社が運用するファンドの運用状況をお知らせするために作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)等をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。■運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。■当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。■当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。■当資料中に示された意見等は、作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。■投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。